

## 2014 年利尻山山岳年報

佐藤雅彦 (利尻町立博物館)

三枝幸菜 (環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室)

岡田伸也 (株式会社トレイルワークス)

利尻山では、利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、協議会）を中心として、様々な行政機関や民間団体、ボランティアなどが協働しながら、山岳環境の課題への対処を実施している。以下、筆者らが知りうる範囲内で、2014 年の利尻山の記録をここに書き留めておく。

なお、本報をまとめるにあたり、利尻山登山道等維持管理連絡協議会事務局、利尻富士町役場、利尻町役場、利尻島自然情報センター、稚内警察署駕泊駐在所及び杓形駐在所、利尻富士町宿泊業組合、黒川健一さん（利尻愛山会）、渡辺俊哉さん（利尻山岳会）、利尻山情報交換会の参加者のみなさん、などから、事業概要や統計データなどの情報提供のほか、貴重なご意見をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

### 1. 利尻山の登山者数

#### ア. 年間登山者数

どれほど多くの方が利尻山を登っているかについては、毎年、協議会がその合計人数を発表している（表1-1）。しかし、本表で示された数値は、集計方法や集計期間が発表年により異なる場合があるため、単純に数値を比較することはできない（集計方法の変化などについては佐藤(2010)を参照のこと）。

表 1-1. 協議会によって発表された利尻山の登山者数

年	和暦	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	西暦	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
集計期間 <sup>1)</sup>	年	年	年	年	年	年	年	年度	年度	年	年	年	年
集計方法 <sup>2)</sup>	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	登山者数	入山者数	入山者数	入山者数	入山者数	入山者数	入山者数
人数	13242	11271	9746	9622	9765	10045	8906	6725	7047	7429	7851	7800	

1) 年：1～12月、年度：4～翌年3月。

2) 登山者数：登山者カウンター入下山両方向計測値÷2（6～10月分）＋回収済み登山計画書によって把握できた人数（4～5月、11～3月分）、入山者数：登山者カウンター入山方向計測値（6～10月分）＋回収済み登山計画書によって把握できた人数（4～5月、11～3月分）。

そこで、本稿では2003年からの数値比較が可能となる表1-2を作成し続けてきた。本表は、夏季のカウンターによる数値と冬期の登山計画書に基づく数値の内訳を示すもので、2014年は、駕泊ルートの「登山者数」が前年から442人減少し、杓形ルートの「登山者数」は316人増加した。杓形ルートの「登山者数」は同ルートでの環境省直轄工事での作業員の往来も含むため、一般登山者の数は前年比で大きな増加はないものと思われる。なお、2011年までの山麓部（森林限

表 1-2. 年別登山者数の変化 (集計日: 2015 年 1 月 22 日)

年	和暦	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
	西暦	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
カウンター (6-10月)	入 山 者 数	鴛泊	9604	8244	8671	8733	9032	8007	6357	6683*	6766	7316	6887
		杓形	1342	1120	909	920	970	817	323	312	585	451	830
		合計	10946	9364	9580	9653	10002	8824	6680	6995	7351	7767	7717
	下 山 者 数	鴛泊	9850	8688	8715	8907	9022	8150	6378	6813*	6886	7558	7103
		杓形	1145	923	773	782	841	662	262	265	497	461	706
		合計	10995	9611	9488	9689	9863	8812	6640	7078	7383	8019	7809
	登 山 者 数	鴛泊	9727	8466	8693	8820	9027	8078.5	6367.5	6748	6826	7437	6995
		杓形	1243.5	1021.5	841	851	905.5	739.5	292.5	288.5	541	456	768
		合計	10970.5	9487.5	9534	9671	9932.5	8818	6660	7036.5	7367	7893	7763
登山計画書 (1-5, 11-12 月)	鴛泊	228	210	88	94	96	71	22	15	26	39	51	
	杓形	72	48	0	0	16	6	0	0	0	0	2	
	ほか	-	-	-	-	-	2	23	37	52	45	30	
	合計	300	258	88	94	112	79	45	52	78	84	83	
全期間 集計	登 山 者 数	鴛泊	9955	8676	8781	8914	9123	8149.5	6389.5	6763	6852	7476	7046
		杓形	1315.5	1069.5	841	851	921.5	745.5	292.5	288.5	541	456	770
		ほか	-	-	-	-	-	2	23	37	52	45	30
		合計	11270.5	9745.5	9622	9765	10044.5	8897	6705	7088.5	7445	7977	7846

登山者数は従来の算出方法による。「入山者数」「下山者数」の定義のほか、推定方法などは佐藤(2010)を参照のこと。

2003年の集計値は住吉(2009)と岡田ほか(2014)を参照のこと。

\*バッテリー切れによる欠測あり(10/5-31)

表 2. 2014 年における 6 月から 10 月までの入山者数 (集計日: 2014 年 11 月 12 日)

	6月	7月	8月	9月	10月
鴛泊ルート	1353	2741	1782	924	87
杓形ルート	55(0)	261(47)	169(36)	249(157)	96(61)
合計	1408	3002	1951	1081	183

( ) は「入山者数」のうち環境省直轄整備に関わった作業員人数を示す

界以下) の登山道補修の作業員往来は、近距離の作業のため集計データから削除を行ったが、2014 年における杓形ルートでは、6 合目～三眺山(8 合目)と作業が広範囲となったため、集計データにその人数を含めた。

図 1 には年別「入山者数」の変化を示した。

#### イ. 月別登山者数

登山者カウンターによる計測数のうち、上り

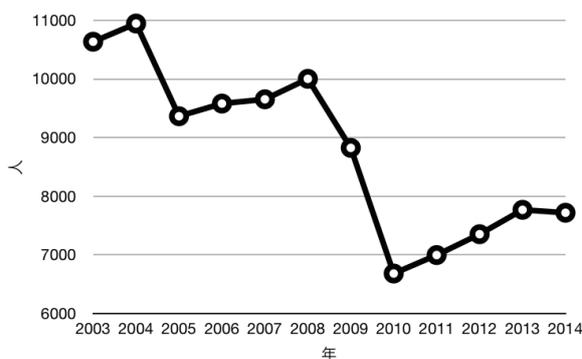


図 1. 年別「入山者数」の変化。

方向の計測数を入山者数として月別にまとめた(表2)。過去4年間との比較に大きな変化はみられない(図2)。9月に若干の増加傾向もみられるが、沓形直轄整備にかかる作業員入山の影響と思われる。

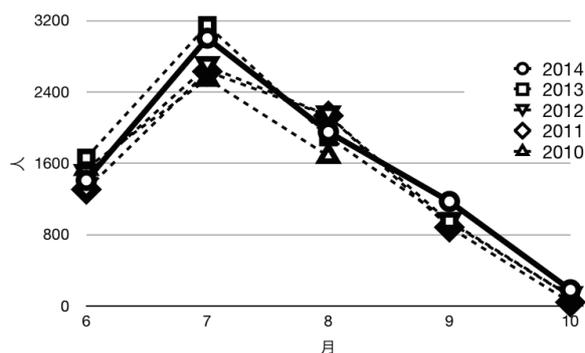


図2. 月別入山者数の変化.

#### ウ. 登山利用の傾向の変化

具体的な数値は未調査のため不明であるが、筆者らの印象として、ここ数年、鴛泊避難小屋の宿泊を前提として夕方から登りはじめる登山者が増えたように感じている。

登山道で出会った人に直接話を聞くと、山頂でご来光を見ることを目的とする人が多いようだ。避難小屋に宿泊してご来光を望む利尻登山が、2014年にテレビで放映されたことも影響のひとつなのかもしれない。

利尻山登山道等維持管理連絡協議会を中心とした地域関係機関では、これまで避難小屋への宿泊を前提とした登山計画を立てないように周知してきた。かつて利尻山では、山麓のユースホテル宿泊者を中心に避難小屋に宿泊しご来光を見る登山者が多く、管理人のいない避難小屋の周囲にトイレ紙が散乱し、し尿の臭いが鼻をついたという。そのため、2000年以降、携帯トイレの普及活動に合わせて日帰り登山を推奨しようと、地域関係者での合意を図ったのが、現在の避難小屋原則宿泊禁止という呼びかけに至った経緯である。確かに山上の小屋で宿泊し、その時間と展望を楽しむことは貴重な体験となり、利尻島にとって決してマイナスになるものではないはずだ。その一方で、宿泊者の多い夏期、避難小屋内部は宿泊者によるペットボトル飲料やタオル、様々なゴミが残され、これらの処理は、登山道の維持管理業者や巡視する地域関係者の善意に頼っているのが現状である。また、脆い地質が露出した山頂部の夜間登山は、明るい時間帯よりも、スリップによる事故の危険性や人為的な土壌侵食を増大させることが予測される。さらに、原則宿泊禁止の情報を事前に入手したことで日帰り登山に変更した登山者が、宿泊している登山者と出会い、同様の体験を得られなかったことに不公平さを感じることも想定される。地域関係者においては、避難小屋の宿泊実態を把握するとともに、ゴミ処理なども含んだ維持管理の具体策に、新たな検討が求められる時期に来ていると思われる。

本件については、利尻山情報交換会の場でも話し合われ、宿泊登山による山岳環境への影響に配慮した避難小屋の有効活用など様々な意見が出された。今後は、多様な視点から宿泊登山についての考察を掘り下げ、利尻山の環境保全と魅力向上を兼ね備えた避難小屋の維持管理、情報発信の徹底、利活用方法が検討されることが望まれる。

## 2. 携帯トイレ

### ア. 販売数

携帯トイレ(サニタクリーン、(株)総合サービス社製)の販売価格は島内では税込み400円で、

表3. 利尻島における携帯トイレ販売箇所別販売数（集計日：利尻富士町 2015 年 1 月 23 日、利尻町 2015 年 1 月 22 日）

年		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
利尻富士町	宿泊施設	4748	3305	2305	1976	2063	2043	2166	
	商店・コンビニ	20	350	820	210	350	260	290	
	観光案内所	115	187	97	353	90	78	179	
	キャンプ場	396	364	235	168	242	396	311	
	温泉								28
	小計	5279	4206	3457	2707	2745	2777	2974	
利尻町	宿泊施設						254	181	
	商店・コンビニ						59	63	
	観光案内所						1	0	
	キャンプ場						4	0	
	その他								21
	小計	578	704	254	326	503	318	265	
計		5857	4910	3711	3033	3248	3095	3239	

高密閉チャック×1、便袋×1が含まれている。販売は、島内各宿泊施設、商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場などで行われ、表3には利尻富士町及び利尻町における販売結果を示した。2014年は、利尻富士町の温泉施設での販売が新たに開始された。島内での販売数についてはここ数年における大きな変化はみられない。

#### イ. 携帯トイレの利用状況

携帯トイレは2000年から2005年までは無料配布を行い、2006年度から島内における販売が開始された。配布または販売実績と回収数などを表4に示した。

回収率については、2010年から2013年にかけて約40%前後で推移していたが、2014年では60%台に回復した。この結果は、販売数の増加以上に回収数が多いことから、携帯トイレを利用した登山者の率が増加したことを示している。この増加の要因としては、普及啓蒙活動などのソフト面での成果のほか、その年の天候などの別要因による排泄行為の増加なども考えられるため、現時点では直接的な要因を特定できず、その推移については比較的長い期間をもって慎重に比較・検討する必要がある。また本表の回収率は、登山者の携帯トイレの利用率を直接示すものではないため、真の利用率調査が早急に行われることが望まれる。なお、仮に6～10月の登

表4. 携帯トイレの年別回収率（集計日：2015年1月22日）

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
配布数 <sup>1)</sup>	9517	9210	4946	5644	5857	4901	3711	3033	3248	3095	3239	
回収数	両ルート合計	2545	2429	2396	2164	3541	2759	1377	1332	1287	1333	1956
	鴛泊ルート	2424	2376	2366	2118	3490	2711	1353	1316	1253	1285	1940
	杓形ルート	121	53	30	46	51	48	24	16	34	48	16
回収率	26.7	26.4	48.4	38.3	60.5	56.3	37.1	43.9	39.6	43.1	60.4	

2007年までの数値は住吉(2009)に基づく。

1) 2006年からは販売数

山者数 7763 名で回収された全携帯トイレ数 1956 個を除した場合、その数値は 25.2%となり、この数値は昨年は 16.9%であった。

山中における使用済み携帯トイレの投げ捨てや置き捨ては、筆者らが確認しただけで 2014 年中に 5 個あった。内訳は、登山道脇への投げ捨てが 2 個、避難小屋内への置き捨てが 1 個、トイレブース内への置き捨てが 2 個だった。利尻山は携帯トイレ普及の進んだ山との認識も広がっているが、例年、この程度の数の投げ捨て等がみられる。

また、2013 年から問題となっている携帯トイレとして使用された尿入りペットボトルの放置については、2014 年においても鴛泊の回収ボックスで 18 個、杓形では 0 個が確認されている。回収ボックスには適切な処理を呼びかける表示がされているが、放置が続いている状態で、今後も携帯トイレの投げ捨てなどとともに、マナー向上を登山者に訴えかけていく必要がある。

### 3. ストックキャップ

利尻島では、植生保全や登山道浸食の軽減などのために「利尻ルール」の一つとしてストックキャップの装着を呼びかけており、島内での販売も 2007 年から実施している。販売場所としては、利尻町役場（観光協会事務所）、利尻町町営ホテル、利尻富士町の公共施設（役場、キャンプ場 2 箇所、観光案内所）、及び各町の一部の宿泊施設となっている。2014 年については販売数の調査が実施できなかったため表を割愛したが、集計が困難な販売数よりも、より直接的な装着率の目安となるようなデータ収集が今後の課題といえる。

### 4. 登山道における施設及び器機の設置状況

#### ア. 携帯トイレブース

8 月 11 日と同月 26 日の大雨後、杓形 8.5 合目ブースの前に土砂が溜まり、ドアが開けにくい状況が発生したが、いずれも翌日の点検補修によって改善された。鴛泊 6.5 合目ブースにおいては、無垢材の歪みによるドアの開閉不良が発生したが、維持管理業務の受注業者によって 7 月に補修された。

#### イ. カウンター

前年からの変更はなく、協議会により 4 か所にカウンターが設置されている。鴛泊登山口、杓形登山口、及び姫沼ポン山ルート（2 か所）の合計 4 か所における各カウンターの設置期間（データ取得期間）は、6 月 1 日から 10 月 31 日までの 5 ヶ月間である。

#### ウ. 標識・案内板

杓形ルート of 環境省直轄整備により、三眺山の地名標柱、各合目標柱（図 3）、旧登山道との分岐誘導標識の付け替え、見返台園地登山口案内板の新設が行われた。新しい標柱は、



図 3. 杓形ルート of 新しい標柱。

表5. 年別募金額

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
募金額(5～10月)・円	116074	77688	17195	18626	23032	13599	7120	1681	10704	4537	4203

2011年に駕泊ルートで付け替えられたものと同仕様で、角柱にステンレス製銘板がビス留めされ、夜間の視認性を増すために角柱上部に反射シールを貼付けするなどの工夫が施されている。また、前年にいたずら書きをされていた駕泊ルート6合目標柱の銘板交換も行なわれた。

#### 5. 携帯トイレ募金(林野庁環境整備推進協力金)

2004年から駕泊管理棟近くのトイレ正面に設置されている募金箱は、携帯トイレ無料配布時には購入資金の財源の一部としてその役割を果たしてきた。2006年からは、携帯トイレ有料化に伴い「利尻山環境整備募金」と名称を変更し、登山道、避難小屋、携帯トイレブースの清掃活動費として集められている。集められた協力金はすべて協議会に納入されている。募金額の推移を表5に示す。

#### 6. 利尻山登山道等維持管理連絡協議会

本協議会は、行政機関や観光、警察、自然団体など14の組織・団体により構成され、主に登山道の維持管理事業などが協議される場である。総会(6/23)、利尻山情報交換会(11/14)、環境省グリーンワーカー事業の受託業務である利尻山山頂部登山道維持補修(6-10月)、両町合同登山道補修作業(9/23)、などが実施された。また、本年は環境省およびパークボランティアの会とともに利尻山コマドリプロジェクトPR活動が7/20に駕泊管理棟で実施されたほか、利尻ルールや危険箇所についての掲示などの普及啓発活動も行われた。その他、前年度補修した駕泊避難小屋の入口扉が、5月に登山者によって破損されたため、改めて修理(10月)が行われた。8月28日には、同月23日から24日にかけての大雨後に発生した利尻山頂部の小規模地滑り箇所(図4)の点検等が行なわれた。



図4. 山頂付近の小規模地滑り箇所. A:山頂側から(8/26), B:地滑り部詳細(8/28).

## 7. 環境省直轄整備事業

環境省によって、7月から10月にかけて沓形ルートの見返台登山口から8合目付近の登山道補修工事、および各合目標識等の付け替えが行われた（標識等の設置詳細については4-ウを参照）。登山道補修工事は、2012年の継続修復工事にあたり、土壌浸食の進んだ登山道に近自然工法による土留工が施された（図5）。



図5. 沓形ルート「夜明かしの坂」付近. A: 整備前, B: 整備後.

## 8. 関係機関による登山道整備・作業など

北海道宗谷総合振興局では、同振興局が管理する歩道区間のうち、姫沼ポン山線歩道の維持管理業務が実施された。

利尻町役場では、沓形ルートの危険箇所等の点検業務が実施され、利尻富士町役場では、鴛泊ルート3合目付近の乙女橋で橋脚の補強工事等が実施された。

林野庁利尻森林事務所においても、登山道巡視や補修作業がシーズンを通じて行われており、これらの作業には同事務所が雇用するグリーンサポートスタッフ（GSS）2名が従事している。巡視点検として、歩道脇の刈払い、危険木の処理等が行われたほか、山頂部の登山道補修業務（環境省グリーンエキスパート事業）においては、同事業のアルバイトとともに計8回の共同作業にGSSとして参加した（図6）。利尻では、年間を通じて山の作業に継続的に関わることのできるボランティア団体等がないため、登山道補修の技術習得等、時間のかかる人材育成がほとんど進んでいないのが現状である。その点、雇用期間中はフルタイムで働けるGSSは、技術習得、知見の集積等の点において優れており、いずれの作業においても欠かせない存在となっている。



図6. 登山道補修作業を行うGSS.

## 9. その他

### ア. 全道一斉山のトイレデー

山のトイレを考える会利尻支部と利尻礼文サロベツパークボランティアの会により、「2014 全道一斉山のトイレデー」（山のトイレを考える会主催）に参加する形で清掃登山が9月7日に実施された。道内名水保護プロジェクトに関わるキリンビールマーケティングと北海道環境財団からの参加者9名を含む25名の参加者が、鴛泊ルートまたは沓形ルートから登り、それぞれのルート上の

清掃活動のほか、トイレマナーカード（山のトイレを考える会作製：9×5.5cm）の配布、ティッシュ痕や携帯トイレの投げ捨て数のカウント、GPSによる地点の記録を行った。山頂で合流を予定していたが、途中の雨・雷などにより、駕泊は第二見晴台で現地解散（一部は避難小屋までの点検を実施）、杓形は三眺山で引き返した。図7には当日確認されたティッシュ痕（●）の位置を示したが、数も少なく、携帯トイレの投げ捨ても見つからなかった。

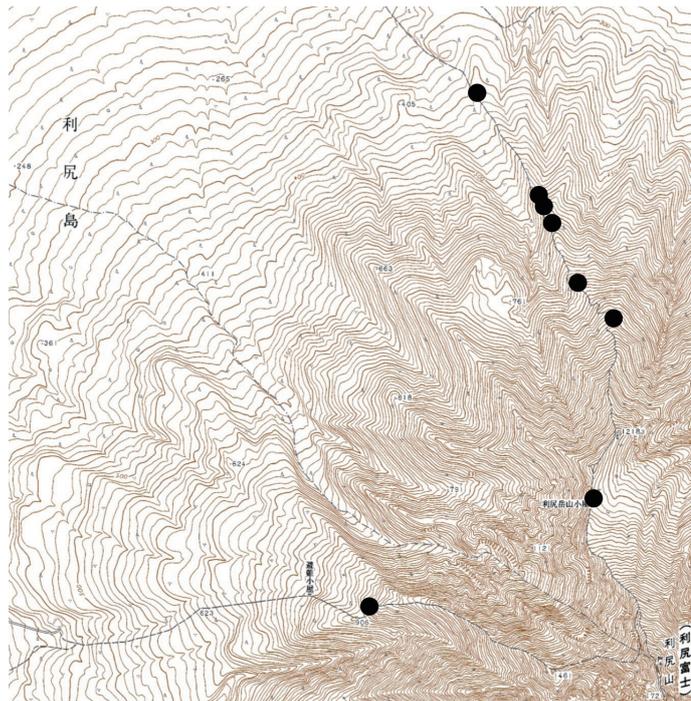


図7. ティッシュ痕が発見された場所（調査日：2014年9月7日）

### イ. リシリヒナゲシ保全

リシリヒナゲシ自生種の保全対策として、DNA分析により個体識別された近縁種（以下、栽培ヒナゲシ）の除去作業が7月16日に駕泊ルートで行われ、2009年から継続的に除去している避難小屋手前の播種地で9株が除去された。作業は環境省からのグリーンワーカー事業を受託した利尻島自然情報センターが担当し、4名が作業にあたった。2013年より大幅に除去数が減少したことは、一定の効果ではあるが、一部の自生地・播種地（9合目）では、新規の実生9株中6株が栽培ヒナゲシであったことから、未だにリシリヒナゲシと栽培ヒナゲシが混生する状況が続いており、引き続き細かなモニタリングと頻繁な除去が必要となっている。なお、これらは昨年同様に登山道整備による木柵階段や木柵土留め付近で確認されたものである

表6. 2014年遭難救助出動実績

月日	救助出動	通報時の 態様	救助 地点	年齢	性別	住所	パーティ ー人数	組織/未 組織の 区分	概要	登山届 提出
1/2	利尻富士町、利尻富士町消防、全駐在所	ケガなし	自力下山	不明	男	北海道	2	組織 山岳会	登山計画書の予定下山日を過ぎたため、登山者の家族が警察に連絡。悪天候のため山中でビバークしていた登山者は、その後2人とも自力下山した。	○
7/4	利尻富士町、利尻富士町消防、全駐在所	転倒(右足骨折)	8.5合目	62	女	兵庫県	4 夫婦2 組	未組織 個人	駕泊ルート8.5合目で下山時に転倒。14:13の通報(通報者不明)から、ヘリにより救助された。	○
7/19	利尻富士町、利尻富士町消防、全駐在所	転倒(左足骨折)	7合目付近	36	女	東京	2	未組織 個人	駕泊ルート7合目付近で、下山時に転倒。15:35の通報(通報者不明)から、6.5合目まで搬送された後、ヘリにより救助された。	×*
8/15	全駐在所	ケガなし(道迷い)	姫沼ボン山探勝路・リヤウシナイ沢支流付近	45	女	大阪	1	未組織 個人	本人から警察に道迷いの通報(15:00)があり、警察による捜索が行なわれた。登山道を横切る沢沿いに下ったところで、遭難者を発見し、姫沼ボン山探勝路への誘導を行った。ヘリ要請も行われていたが、遭難者が無事保護されたため、ヘリは飛ばなかった。遭難理由は、大雨によって登山道を横切る沢が洗掘され、立入禁止ロープが普段より高い位置になっていたため、足元ばかりを見て歩いていた登山者がロープの存在に気づけなかったものと推測される。	×

上記表は、稚内警察署駕泊駐在所および杓形駐在所からの聞き取りによる。

※救助者の宿泊場所が不明であること、登山計画書未回収の宿泊施設が1件あることから、本稿執筆時における登山届けの提出は確認されていない。

が、施設の維持補修のためスコリアを移動したことにより、栽培ヒナゲシの休眠種子が発芽したものと推測される。利尻山全体におけるリシリヒナゲシの株数は、2010年の鬼脇ルートでの記録を含め370株程度と考えられている。

#### ウ. 事故・遭難

2014年内の遭難救助については表6に示したほか、事故案件としては、駕泊ルート下山中のケガが目立った。なかでも、7合目から8合目にかけての浮き石の多い急坂は、毎年のように捻挫や骨折事故が発生するポイントであり、適宜休憩を挟むことや、事故多発ポイントであることを注意喚起することが必要であろう。特に浮き石の多い箇所については、登山道の補修も必要と思われた。

6月初旬に駕泊消防署と利尻富士町役場の共催による遭難救助訓練が行われ、利尻富士町消防事務組合職員、利尻富士町役場職員、利尻島内の警察駐在所所員、林野庁職員、山岳ガイド、環境省アクティブレジャーなど30名が参加した。内容は、消防による三角巾使用、副子固定についての実技指導のあと、駕泊ポン山での搬送訓練だった。

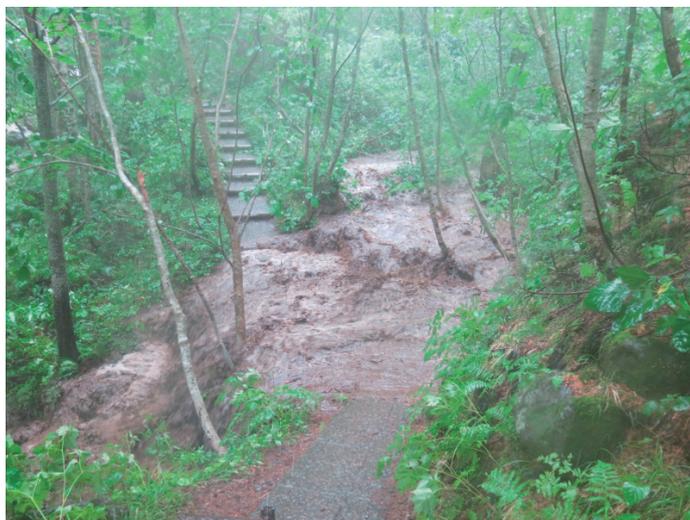


図8. 大雨時の甘露泉水手前の溜沢(2014年8月11日)

また、2014年は、8月11日の局地的短時間集中豪雨によって、隣の礼文島で人的被害を伴う土砂災害があった。同日は、利尻島でも大雨が降り、一時、登山道を横切る沢(常水なし)が増水のため渡渉できなくなる状態となった(図8)。8月23日から24日にかけての

大雨では、当日の登山者に対して、駕泊駐在所による登山口付近での下山誘導が行われた。異常気象への対応については、局所的な気象予測の精度向上や、自治体と気象庁との情報連携、登山者の安全確保など様々な課題があるが、近年の異常気象などを考慮すれば、登山者に対する情報周知の迅速化などの具体策について、地元においても検討・準備されるべき時期にきていると思われる。この点についても利尻山情報交換会では、町内の防災無線を使った悪天時における登山者への呼びかけについて意見交換が行われた。

#### エ. 登山計画書

登山計画書の提出率を調べることは難しい。なぜなら登山計画書はパーティ単位で提出されるため、真のパーティ総数を調査する術が無いと提出率が算出できないからである。そこで利尻山では、登山計画書による登山者数の「把握率」という数値を記録している(佐藤・岡田、2011)。登山者カウンターによって把握できる人数を全登山者数とした場合に、集計した同期間内の登山計

画書で何%の人を把握できたかを示すのが「把握率」であり、この推移を示すのが図9である。例年、集計時になんらかの理由（集計調査時にすでに冬期閉鎖となり宿泊施設から計画書を回収できない、など）により未回収の計画書が存在することは、把握率の数値変動に少なからぬ影響を与えているものと思われる。今後は、未回収の計画書をなくす仕組み等をつくり、「把握率」の精度を上げていく取り組みが必要といえる。

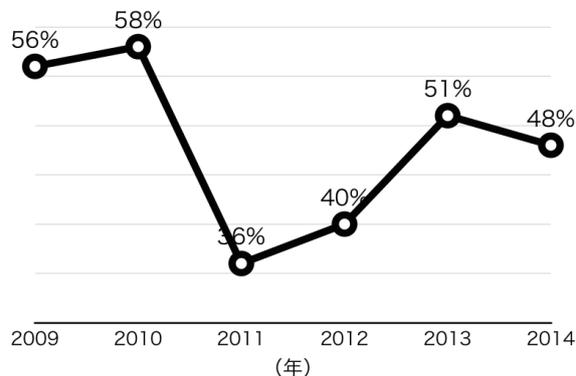


図9. 登山計画書による登山者数把握の割合の推移

登山計画書から把握できる性別年齢構成は、計画書の提出率や記入率に影響されるため、利用実態全てを反映しているとは言えないが、2014年の登山計画書で年齢性別が把握できた一般登山者2771人のうち、最も多かった年代別登山者層は60代男性(514人)、ツアー登山者413人においては60代女性(156人)と

た年代別登山者層は60代男性(514人)、ツアー登山者413人においては60代女性(156人)と

表7. ツアー登山と個人ガイド登山のパーティ数およびパーティ人数の年変化

年	パーティ数						パーティ人数					
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2009	2010	2011	2012	2013	2014
ツアー登山	61	34	32	39	42	38	923	428	450	619	608	510
個人ガイド	13	31	36	23	30	30	51	150	146	107	134	153
合計	74	65	68	62	72	68	974	578	596	726	742	663

表8. 利尻山の山岳団体

名称	利尻愛山会	利尻山岳会
設立	1996年2月29日	2014年6月1日
経緯	1996年の次田経雄氏の利尻山スキー滑降を機に結成。	2014年6月頃、渡辺俊哉氏、吉田秀昭氏、熊谷洋人氏の3名が、NHKBS番組「グレートトラバース」の撮影とその応援をきっかけに設立を思い立つ。
会長・代表	黒川健一	渡辺俊哉
目的	(同会趣旨より転載) 1. 利尻山の自然を愛する仲間が、相互に連帯・協力し合い、豊かな自然を守り育てていく事とする。 2. 四季を通じて利尻の自然に親しみ、より知識を得るための活動を積極的に行う。 3. 利尻島の動植物の知識を得るための学習活動を行う。 4. 利尻山での遭難事故があった場合は、人命救助の立場からできる範囲で協力体制をとる。 5. 他の関係団体とも交流を図り、活動の趣旨の啓蒙を図る。 6. 利尻の自然と調和のとれる楽しみ方を工夫実践する。	・利尻山に良いことをどんどんやる。 ・利尻山について語り合う場をつくる。
活動	・総会 ・遭難救助への協力 ・リシリヒナゲン保全活動 ・避難小屋清掃、片付け ・冬山の目印付け ・登山道の枝払い ・会員同士の登山、など。	・グレートトラバースの応援 ・総会 ・ワッペン作成、など。 ・今後は登山道整備への協力や山開きイベントなどを検討中。
会員数	約25名(設立当初)	22名(12/23現在)
聞き取り	黒川健一さんより(2015年2月15日)	渡辺俊哉さんより(2014年12月23日)

なり、中高年、特にその中でも男性登山者が多いことがうかがわれた。また、ツアー登山と個人ガイド登山のパーティ数およびパーティ人数の年変化については、表7に示したとおりである。

#### オ. 山岳団体

2014年に新しい山岳団体が作られたため、現時点での利尻山に関する2つの山岳団体の概要を表8のとおり記録しておく。

#### 参考文献

住吉直人，2009. 2008 利尻山のトイレ対策について. 山のトイレを考える会（編），第10回山のトイレを考えるフォーラム資料集：29-33. 山のトイレを考える会.

佐藤雅彦，2010. 2009 年度利尻山山岳年報. 山のトイレを考える会（編），第11回山のトイレを考えるフォーラム資料集：73-81. 山のトイレを考える会.

佐藤雅彦・岡田伸也，2011. 2010 年度利尻山山岳年報. 山のトイレを考える会（編），第12回山のトイレを考えるフォーラム資料集：37-46. 山のトイレを考える会.

岡田伸也・三枝幸菜・佐藤雅彦，2014. 2013 年利尻山山岳年報. 山のトイレを考える会（編），第15回山のトイレを考えるフォーラム資料集：9-19. 山のトイレを考える会.